

【Body Resonance 共振する肉体】

——— 時間の器としての肉体。変態の踊りは必然的に現れる。 ———

2023年3月24日（金）～26日（日）津市白山町にある Wild Art YESE にて、ヨーロッパに舞踏を広めた第一人者である、ドイツ在住の舞踏家・吉岡由美子氏による第9回ワークショップを開催します。

アジア、欧州、北米、南米各地で繰り広げられているWSですが、日本での唯一の機会は、ここ Wild Art YESE のみでとなっております。アマチュア、プロフェッショナル問わず、体と心を楽しく紐解きながら踊りに導いていく彼女の指導は定評があり、リピーターが多いのが特徴です。この機会に、是非出会ってみてください。

各日、10時開始。約一時間半の休憩を挟み、16時終了です。遠方の方に向けて、合宿プランもありますので、お問い合わせください。

- 【内容】*
- 野口体操、太極拳、ヨーガにインスピレーションを受けたリリース・エクササイズ
 - * 呼吸エクササイズ
 - * 舞踏に関する各種ワーク
 - * 振り付けと即興の組み合わせ など

【参加費】 一日 7,000円 / 二日 13,500円 / 三日 20,000円

【申し込み】 yeselive.jp

Wild Art YESE ! は、2012年津市白山町に芸術家や文化人の集まる場として、創作拠点の機能を持つ邸宅としてオープンしました。田舎暮らしの中で、忘れられた何かを現代社会へ問いつつ、不毛の地を開拓していく民のように、未来に向けたアイデアを耕し、芸術・文化を实らす活動をしています。

(主宰 : ダンサー兼パフォーマンスアーティスト Yuko)

Yumiko Yoshioka 吉岡由美子

“アリアドーネの會” 創立メンバーとして、1974年から1982年まで、日本およびヨーロッパで活動。（当時の芸名：ミゼール花岡）

1978年パリにて、室伏鴻、カルロッタ池田の演出・振付で出演した“最後の樂園” (Dernier Eden)は、劇場における海外で初めての舞踏公演となった。

1981年には、作品“ツアラトウストラ”をヨーロッパ各地で160回以上公演。“アリアドーネの會”一時解散の後は1988年から1996年まで、“tatoeba-THÉÂTRE DANSE GROTESQUE”のメンバーとして、関美奈子、デルタライと共にベルリンを拠点に活動。数多くの海外公演、ワークショップ・プロジェクトを手がけた。

tatoeba 解散後、1994年に美術家 Joachim Manger、音楽家 Zam Johnson と共に“TEN PEN CHii art labor”を創立。（2015年解散）

肉体、音楽、インスタレーションとの共同作業を中心に、実験的な作品、パフォーマンスを創作し続け、美術館での上演も多数行った。

その後はソロ活動に入り、インドネシア、メキシコ、ブラジル、アメリカ、ヨーロッパなどで、世界のアーティストとのコラボレーションに取り組んでいる。また、旧東ドイツに位置するブルーリン城（国際アトリサーチセンター）にて、1995年から2019年まで、4年に一度、デルタ・ライと共に“eX...it! ダンス交流フェスティバル”を主催し、100名以上の参加者の集まる祝祭空間を創出してきた。今後は、若い舞踏家を後継者として、2023年から開催される新しいダンス国際交流プロジェクトに、教師として参加することになっている。

1995年より“Body Resonance 共振する肉体”と名付けられたワークショップを展開し、己の体を探っていく冒険に共感する人々との交流を続けている。彼女は、永遠に続くこの営みを、今日も世界のどこかで追究している。